

【神奈川県藤沢市】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

2025年（令和7年）に策定した「第4期藤沢市教育振興基本計画」においては、1人1台端末の利活用をはじめとするICT関連事業について、次のように位置づけている。

基本方針及び施策の柱	概要	第3期実施事業
1. ともに学び、多くの人とかかわり合いながら自立する子どもを育成します		
①確かな学力の向上	学習指導要領を踏まえ、子どもたちの基礎的基本的な知識・技能と思考力・判断力・表現力等を培い、主体的に学習に取り組む態度を育成します。	教育ICT推進事業
2. 安全・安心で、学びを支える学校づくりを進めます		
③学びを支える質の高い教育環境の整備	子どもたち一人一人の学びを支えるため、教育的ニーズに応じた教育環境の整備や学校ICTの充実等の物的条件整備を進めます。 (一部抜粋)	学校ICT環境整備事業

また、

- ・情報活用能力を育み、各教科等での学びを確実にする
- ・個別最適な学びと協働的な学びの充実を実現する

という2点が目的であることを念頭に、1人1台端末をはじめとするICT機器等について更なる活用促進を図る。

これらを踏まえ、当市は1人1台端末を活用し、児童生徒が自ら興味・関心を持って学びに向かい、次の学びにつなげる「主体的な学び」や、他者の考え等を交流しながら自身の考えを広げ、深める「対話的な学び」、そして、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせる「深い学び」を単元や題材のまとまりの中で実現できるよう目指す。

2. GIGAスクール構想第1期¹の総括

(1) 1人1台端末の整備実績について

令和2年度中に小中特別支援学校の全児童生徒に対し1人1台端末の整備を行った。

¹ 1人1台端末及び高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備し、個別最適化された学びを全国の学校現場で持続的に実現させる構想のこと。ここでの「第1期」とは、2020年（令和2年）に藤沢市立学校へ導入された1人1台端末の活用期間のことを指す。（以下同様）

内訳は以下のとおりである。

- ・ 小学校（1～2年生）
C h r o m e b o o k（デタッチャブルタイプ）、W i n d o w s タブレット
- ・ 小学校（3～6年生）、中学校
C h r o m e b o o k（コンバーチブルタイプ）、W i n d o w s タブレット
- ・ 特別支援学校
i P a d

（2）総括

G I G A スクール構想第1期では、藤沢市立学校の児童生徒及び教職員に教育用 G o o g l e アカウントを配布し、1人1台端末の整備を行った。また、1人1台端末を効果的に活用し、主体的・対話的で深い学びを実現するため、以下の整備を併せて実施した。

❖ 学習支援ソフトの導入

学習支援ソフトのロイロノートを導入。共同編集や児童生徒同士の意見を共有することができ、協働的な学びをより効果的に進めることが可能となった。

❖ I C T 支援員の配置

I C T 操作に不慣れな児童生徒や教職員を支援するとともに、授業における I C T の効果的な利活用を推進するため、専門的知識をもった I C T 支援員の学校への定期的な派遣を実施した。具体的には、1人1台端末及び I C T 機器の利活用支援や各種アカウント管理、不具合対応、ソフトウェアの利活用研修などの支援を行ってきた。

❖ モバイル W i - F i ルーターの整備

様々な場面・場所で1人1台端末が利用できる環境を整えるため、令和2年度からモバイル W i - F i ルーターの整備を行った。主な使用用途として、不登校の児童生徒や W i - F i 環境がない家庭への支援としての貸出に加え、校外学習において端末を活用するために校外へルーターを持ち出すこと等があった。

❖ 藤沢市立学校において、ローカルブレイクアウト回線を整備

1人1台端末の整備に伴い、校内の通信環境が急速に増大したためトラヒックが逼迫。インターネットの利用にも影響したため、各学校から直接インターネットへ接続できるローカルブレイクアウト回線を整備し、1人1台端末が快適に利用できる環境を構築した。

❖ 令和4年度にネットワークアセスメントを実施

ローカルブレイクアウト回線の整備後、各教室におけるネットワーク環境を調査し、ネットワークにつなぎづらい環境にある教室等については、アクセスポイントの交換を行い、さらなるネットワーク環境の改善に努めた。

❖ 教育文化センター 情報教育研究部会

1人1台端末の効果的な活用を進めるにあたり、市内の端末活用における好事例をまとめ、セミナーを開き各学校へ共有した。

❖ 「活用型情報モラル教材G I G Aワークブックふじさわ」の作成

「情報モラル」と「情報活用」に焦点を当て、ネットの特性や適切なコミュニケーション方法、情報のリスクなど、情報モラルについて学べる教材を作成。上手に情報やICTを活用し、情報社会に参画して社会に働きかけるための情報活用についても学べる内容が盛り込まれている。また、保護者向けに、携帯電話・スマートフォンのトラブルや、家庭でのルールについて等のページも掲載。1人1台端末を利用する中で、本教材の活用を進めていく。

3. 1人1台端末の利活用方策

(1) 1人1台端末の積極的活用

G I G Aスクール構想第1期の課題として、破損や故障が1人1台端末の利活用に大きな影響を及ぼした。そこで、第2期においては、第1期に導入した1人1台端末で利用できるものは引き続き予備端末として活用し、破損や故障を過度に考慮する必要がない状況を目指す。加えて、非常勤職員やICT支援員を始めとした学校関係職員に対しても1人1台端末を配当し、より円滑な校務の実施や学習支援を充実させ、1人1台端末の積極的な活用を促していく。また、引き続き教職員を対象とした利活用研修を実施し、ICTを活用した指導力向上に努めていく。

(2) 個別最適・協働的な学びの充実

学習者用デジタル教科書については、主たる教材として紙とデジタル双方の利点をふまえ、児童生徒が適宜選択しながら「主体的・対話的で深い学び」を実現できることを目指す。また、計画訪問等での研究授業や研究協議を通して、デジタル教科書の効果的な活用の指導・助言を行う。また、中学校においては、デジタルドリルを導入し、生徒一人一人の習熟度やペースに合わせた学習を提供し学びの定着を促す。

また、児童生徒が自分の考えをまとめ、発表・表現する機会を増やすため、協働学習支援ツールを引き続き整備するとともに、その活用を促進する。

(3) 学びの保障

不登校支援の観点から、授業のオンライン配信やWEB会議システムを活用した朝の会等を実施できる環境を整え、児童生徒及び保護者と相談の上、個別の状況に応じて対応していく。